

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 28 週 ( 7 月 7 日 ~ 7 月 13 日 )  
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

ヘルパンギーナ  
 警報発令中!

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題 ~夏の子どもの感染症にご注意:ヘルパンギーナ、手足口病~

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	ヘルパンギーナ	6.21	(5.03)	↑↑↑	↑↑↑	↑	↗
2	感染性胃腸炎	2.12	(3.06)	↓	↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.18	(1.06)	↘	↘	→	→
4	咽頭結膜熱	0.97	(0.85)	→	→	→	↓
5	水痘	0.41	(0.88)	↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

## ◆ 県内概況 ◆

### ◆ 県全体でヘルパンギーナが警報開始基準値を上回りました

- 先週に引き続き、ヘルパンギーナがさらに増加しており、今週は県全体で警報レベルに到達しました。(警報レベル開始基準値は疾患ごとに定められています。)特に奈良市保健所管内では、2週間連続で報告数が倍増しており、注意が必要です。患者年齢は4歳までで大半を占めています。
- 近隣府県でも報告数の増加が続いており、今後しばらく流行が続くと思われます。
- ヘルパンギーナだけでなく、咽頭結膜熱も、例年より高いレベルで推移しています。昨年、同時期に流行した手足口病は、今年は低レベルで推移しています。
- 感染予防のために感染者との密接な接触を避けるとともに、帰宅後のうがい・手洗いを習慣づけ、体調不良を感じたら早めに医師の診察を受けてください。また、体調が回復してもウイルス排出はしばらく続きます。トイレの後やおむつの交換後は石けんによる手洗い・消毒を心掛けましょう。

## ❖ 小児科外来情報 ❖

### 北部地区(矢追医院)

ほぼ、夏風邪のみの状態で患者数は減少している。突然の 39 度前後の発熱と頭痛と軽度の腹痛を訴え、嘔気と 1-2 回の嘔吐を伴うが下痢症状がなく、咽頭所見は軽度の点状発赤を僅かにみる『いわゆるなつかぜ』が多く、次いで同様の発熱と頭痛と発赤を伴う水泡や比較的小さい口内炎をみとめるヘルパンギーナがある。咽頭結膜熱は減少しており、今シーズンは手足口病は少ない。その他伝染性紅斑や水痘が流行している。

### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。短期の発熱、咽頭中等度発赤の夏風邪が多い。アデノ様であっても検査陰性例が多い。ヘルパンギーナも流行中。熱と舌尖に有痛の小さい白点を認める例があり、数年前から少しずつ観察されている。A 群溶連菌感染症も小流行。感染性胃腸炎はノロ、ロタは見られなくなったが下痢例はすこしずつ流行。頬だけの発疹で確定診断にいたらなかった伝染性紅斑様の例が1例あった。手足口病はみられない。

### 南部地区(県立五條病院小児科)

咽頭発赤、高熱1~2日の夏カゼが多い。症状のはじめに嘔吐、後半に下痢や発疹の伴う例もみられる。ヘルパンギーナの流行も続いているが、手足口病は少ない。鼻汁、咳嗽の感冒は冷房によるものか。

## 夏の子どもの感染症にご注意：ヘルパンギーナ、手足口病

一般に、「夏かぜ」と呼ばれるなかには、この時期に流行するウイルス感染症が潜んでいます。このウイルスには数種類あり、梅雨時期から夏にかけて感染者が増加します。代表的な病気である、ヘルパンギーナと手足口病について紹介します。

### ヘルパンギーナ (今年、西日本で大流行しています)

発熱とのどにできる水ぶくれ（水疱）が特徴で、しばらくすると水疱は破れて潰瘍（かいよう）になります。のどの痛みが強く、水分をとりづらいために脱水を起こしてしまうことがあります。発熱は2～4日程度で解熱しその後発疹も消失します。

(潜伏期間) 2～4日 (原因ウイルス) コクサッキーA群ウイルス

(感染経路) 飛まつ感染か、患者便中のウイルスによる経口感染です。

#### (奈良県の患者発生状況)

6月(23週:6/2-8)以降、確実に患者は増加しています。そのスピードは毎週倍増しています。

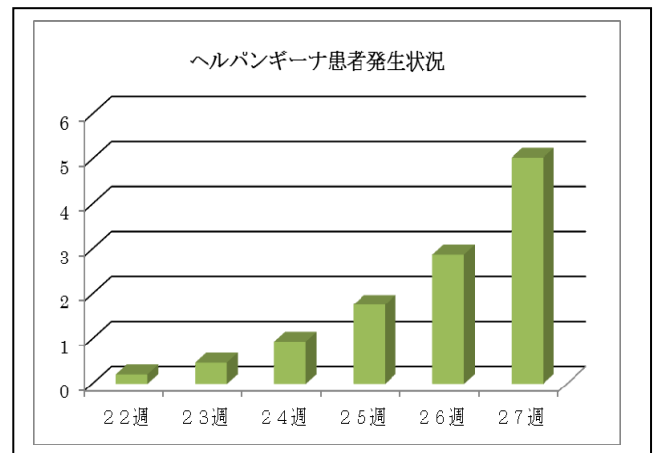
県全体では6.21と警報レベル(6.0<)に達しています。特に奈良市保健所管内では11.29と大幅に警報レベルを上回る状況です。

(\*警報レベル=大きな流行)

患者の多くは0歳から6歳で、最多は1歳から3歳の幼児で全体の65%を占めています。例年の流行パターンから、ピークは27週から30週(7月末)と予想しています。

#### (予防)

外から帰った後、食事の前、トイレの後などに手洗いを行うことが最も大切です。治った後も3～4週間は便にウイルスが排泄されるため、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオルを共用することは避けましょう。



### 手足口病 (今年の患者は少ないようです)

手のひら、足の裏や口の中に小さな発疹や水疱ができかゆみを伴います。発疹は2～3日で褐色の斑点となりその後消えてしまいます。口の中の水疱は破れると痛みがあります。

(潜伏期間) 3～4日 (原因ウイルス) コクサッキーA群ウイルス、エンテロウイルス71

(感染経路) 飛まつ感染か、患者便中のウイルスによる経口感染です。

#### (奈良県の患者発生状況)

昨年度は本県を含めた全国的な流行がありましたが、今年の患者数は少なく、同じ27週(6/30-7/6)で昨年と今年を比較すると4.47、0.74と大きな違いが見られます。要因の一つは昨年感染したために抗体を獲得したためと考えています。

◆定点把握感染症報告状況◆

平成 26 年 第 28 週 7 月 7 日 ~ 13 日

保健所別報告数	奈良県	北部		中部		南部	
		奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野
インフルエンザ定点数	55	11	16	11	11	2	3
インフルエンザ							
小児科定点数	35	7	10	7	7	1	2
RSウイルス感染症	1 (0.03)	1 (0.14)					
咽頭結膜熱	33 (0.97)	12 (1.71)	12 (1.20)	4 (0.57)	4 (0.57)	1 (1.00)	
A群溶連菌咽頭炎	40 (1.18)	18 (2.57)	5 (0.50)	5 (0.71)	10 (1.43)		2 (1.00)
感染性胃腸炎	72 (2.12)	9 (1.29)	33 (3.30)	4 (0.57)	23 (3.29)	1 (1.00)	2 (1.00)
水痘	14 (0.41)	5 (0.71)	7 (0.70)	1 (0.14)	1 (0.14)		
手足口病	8 (0.24)	2 (0.29)	5 (0.50)		1 (0.14)		
伝染性紅斑	5 (0.15)	2 (0.29)		3 (0.43)			
突発性発しん	13 (0.38)	3 (0.43)	6 (0.60)	2 (0.29)	1 (0.14)	1 (1.00)	
百日咳							
ヘルパンギーナ	211 (6.21)	79 (11.29)	44 (4.40)	51 (7.29)	31 (4.43)	1 (1.00)	5 (2.50)
流行性耳下腺炎	6 (0.18)	1 (0.14)	4 (0.40)	1 (0.14)			
眼科定点数	9	1	3	2	2	0	1
急性出血性結膜炎							-
流行性角結膜炎	7 (0.78)	3 (3.00)	2 (0.67)	1 (0.50)	1 (0.50)		-
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	0
細菌性髄膜炎							-
無菌性髄膜炎							-
マイコプラズマ肺炎							-
クラミジア肺炎							-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)							-

◆全数把握感染症報告状況◆ ( )は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核 9件(奈良市 2、郡山 4、葛城 2、吉野 1)
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 2件(桜井 1、葛城 1)
4類感染症	
5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症 2件(郡山 2)

◆第28週のトピックス◆

◆夏休み期間中における海外での感染症予防について<厚生労働省>  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/travel/2014summer.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel/2014summer.html)

上段 : 報告数  
 (下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男																						5965
	女																						5982
RSウイルス感染症	男																					1	133
	女																					1	118
咽頭結膜熱	男		1	1	5	3	5	3		1												19	312
	女			3	2	2	1	2	1	1	1		1									14	260
A群溶連菌咽頭炎	男			1	1	2	3	2	4	2			3	1								19	557
	女			3	1	2	2	2	1	1	6		3	1	1							21	517
感染性胃腸炎	男		1	6	4	5	2	1	2	1			3	2	6							33	2708
	女		1	2	6	3	3	5	2	1			2	3	11							39	2523
水痘	男	1		1			1	1				1										7	433
	女				1			1							2							7	385
手足口病	男			3				1							1							5	49
	女		1					1	1													3	42
伝染性紅斑	男						2															2	31
	女		1		1		1															3	35
突発性発しん	男		4	2																		6	161
	女		3	2	2																	7	124
百日咳	男																						1
	女																						
ヘルパンギーナ	男	1	4	19	27	13	17	9	9	3	3	2	3									110	332
	女		1	23	22	9	17	13	6	3	3	2	1		1							101	306
流行性耳下腺炎	男					1			1	1												3	49
	女			1	1					1												3	42
急性出血性結膜炎	男																						
	女																					1	48
流行性角結膜炎	男															1						6	57
	女															1						1	
細菌性髄膜炎	男																						4
	女																						1
無菌性髄膜炎	男																						5
	女																						1
マイコプラズマ肺炎	男																						1
	女																						2
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																						18
	女																						18

❖注目疾患の動向❖ 全て定点当たり報告数

■ H26 ▲ H25 □ H24 〰 過去10年平均

